

陸連時報 第三

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

2013

2

月号
平成25年

2013年度主要競技会日程

*主要競技会日程は、2013年3月開催の理事会で最終承認されます。

	主催大会			国際大会		
	期日	大会名	場所	期日	大会名	場所
4月	21(日)	97 日本選手権 50km 競歩	石川(輪島)			
	21(日)	15 長野マラソン	長野			
5月					アジア GP	
	5(祝・日)	ゴールデングランプリ			アジア GP	
6月		59 全日本中学通信陸上	各地			
	1(土)～2(日)	97 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)			
	1(土)～2(日)	29 日本ジュニア選手権混成	長野市営(長野)			
	7(金)～9(日)	97 日本陸上競技選手権	味の素スタジアム(東京)			
7月				4(木)～7(日)	20 アジア陸上競技選手権	チェンナイ(インド)
				7(日)～12(金)	27 ユニバーシアード	カザン(ロシア)
	30(火)～8/3(土)	66 全国高校陸上	大分銀行ドーム(大分)	10(水)～14(日)	8 世界ユース陸上競技選手権	ドネツク(ウクライナ)
8月		48 全国定通制高校陸上	国立(東京)	10(土)～18(日)	14 世界陸上競技選手権	モスクワ(ロシア)
	19(月)～22(木)	40 全国中学陸上	瑞穂(愛知)			
	23(金)～24(土)	29 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)			
		48 全国高専陸上				
9月						
10月	4(金)～8(火)	68 国民体育大会	味の素スタジアム(東京)	9(水)～11(金)	6 東アジア競技大会	天津(中国)
	18(金)～20(日)	29 日本ジュニア選手権	瑞穂(愛知)			
	18(金)～20(日)	7 日本ユース選手権	瑞穂(愛知)			
	25(金)～27(日)	97 日本選手権リレー	日産スタジアム(神奈川)			
	25(金)～27(日)	44 ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)			
11月	17(日)	5 横浜国際女子マラソン	神奈川			
	23(祝・土)	'13 国際千葉駅伝	千葉			
12月	1(日)	67 福岡国際マラソン	福岡			
	7(土)～8(日)	小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)			
	15(日)	21 全国中学駅伝	山口			
	22(日)	64 25 全国高校駅伝	京都			
2014 1月	12(日)	32 都道府県対抗女子駅伝	京都			
	19(日)	19 都道府県対抗男子駅伝	広島			
	26(日)	'14 大阪国際女子マラソン	大阪			
2月	1(土)	'14 日中交流ジュニア室内大阪	大阪城ホール(大阪)		6 アジア室内選手権	
	1(土)～2(日)	'14 日本ジュニア室内大阪	大阪城ホール(大阪)			
	9(日)	49 千葉国際クロスカントリー	昭和の森(千葉)			
	16(日)	97 日本選手権男女 20km 競歩	兵庫			
	22(土)	28 福岡国際クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	22(土)	13 アジアクロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)
	23(日)	'14 東京マラソン	東京			
3月	2(日)	69 びわ湖毎日マラソン	滋賀			
	9(日)	'14 名古屋ウィメンズマラソン	愛知		15 世界室内選手権	ソボット(ポーランド)
	9(日)	38 全日本競歩能美	石川	9(日)	'14 アジア陸上競技選手権・20km 競歩	能美(石川)
			29(土)	21 世界ハーフマラソン	コペンハーゲン(デンマーク)	

年頭にあたって



公益財団法人 日本陸上競技連盟
会長 河野 洋平

新年、明けましておめでとうございます。二〇一三年の年頭に当たりご挨拶申し上げます。

昨年八月のロンドンオリンピックには、オリンピック初出場の若手選手三五名を含む、男女併せて四六名の日本代表選手を派遣し、フレッシュなチームジャパンで戦いました。男子ハンマー投の室伏広治選手が銅メダル、男子4×100mリレーは5位入賞、男子マラソンの中本健太郎選手は6位入賞という結果でした。初出場の山縣亮太選手、新谷仁美選手、オリンピック2回目の森岡紘一朗選手はそれぞれ自己のベスト記録を更新しましたが、この大舞台で持てる力を十分に発揮できない選手も多く、さらに一層の奮起が求められています。

一方、数年来のジュニア・ユース世代の強化・育成は徐々に実を結び始め、世界ジュニア・世界ユース選手権等で活躍する選手が日本トップアスリートに成長し、世代交代が進みつつあります。連盟は日本陸上界の将来を考え、若い世代をしっかりと育て上げ、四年後のオリンピックを見据えて世界の舞台へと飛躍させたいと思います。

また、陸上競技の普及のため、第一線のアスリートが陸上競技の楽しさを子供たちに伝える「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」も、昨年はおよそ5千人の子供たちを対象に、北は北海道、南は沖縄まで全国を巡りました。更には小・中・高と年代別のクリニック事業など、競技者の発掘育成を目指して様々な活動を展開しています。

日本陸上競技連盟の公益財団法人への移行に伴い、加盟団体である全国四七都道府県陸上競技協会の法人化も進めており、現状で六二%の達成率となっています。また、全国八〇〇万人といわれるランニング愛好者に対し、正しい情報を提供し、ランニングブームをランニング文化に定着させるため、陸連ランニング登録会員を募集し、各種サービスをを行うプロジェクトを開始します。

三二万人の登録者とともに、わが国の陸上競技を統轄し代表する公益財団法人として、競技者を始め、オフィシャルパートナー・スポンサー、関係者が一体となり陸上競技の社会的な価値を高め、広く国民のための陸上競技界を確立できるよう、今後とも努力をして参ります。

皆様方のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

理事会報告

第10回理事会

日時：2012年12月13日(木) 13時30分～15時06分

場所：セルリアンタワー東急ホテル「ボールルーム」

〈理事総数29名中出席者26名、理事会の成立を風間事務局長が報告。〉

【協議事項】

1. 2013年度主要競技会日程
2. 2013年度後援大会申請
3. 事務所の移転日
4. 第98回(2014)・第99回(2015)日本陸上競技選手権大会の開催地
5. 第69回(2014)・第70回(2015)国民体育大会の実施種目
6. 強化競技者規程の改定
7. 登録会員規程の改定

【報告事項】

1. 第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ)の派遣記録
2. 第97回日本陸上競技選手権大会(2013/東京)の参加資格
3. 第1種・第2種公認陸上競技場のB競技場の取扱い
4. 血液検査の導入
5. 安全対策ガイドライン

【協議事項】

1. 2013年度主要競技会日程

尾縣専務理事より、2013年度主要競技会日程の説明があり、アジアクロスカントリーが、海の中道海浜公園(福岡)での開催が決まった。

2. 2013年度後援大会申請

尾縣専務理事より、2013年度後援大会申請として37大会の継続申請の説明があり承認された。

3. 事務所の移転日

尾縣専務理事より、日本陸上競技連盟の事務所が岸記念体育会館から新宿に移転する期日が「2012年12月17日(月)」となったことの説明があり承認された。

4. 第98回(2014)・第99回(2015)日本陸上競技選手権大会の開催地

尾縣専務理事より、日本陸上競技選手権大会の開催地について、第98回(2014)は、福島(県営あづま陸上競技場)、第99回(2015)は、新潟(東北電力ビッグスワンスタジアム)で実施することの説明があり承認された。

5. 第69回(2014)・第70回(2015)国民体育大会の実施種目

原田強化委員長より、第69回(2014)及び第70回(2015)国民体育大会の実施種目と、全55種目で実施することの説明があり承認された。

6. 強化競技者規程の改定

原田強化委員長より、オリンピック・リオデジャネイロ大会に向けて、強化競技者規程の見直しについて説明があり承認された。

新規による強化競技者は、次の2ランク設定される。

- (1) ゴールドアスリート

① オリンピックまたは世界選手権の個人種目でメダルを獲得した競技者。

② ゴールドアスリート指定標準記録を満たした競技者。

- (2) シルバーアスリート

① オリンピックまたは世界選手権の個人種目で8位入賞、及びアジア競技大会で金メダルを獲得した競技者。

② シルバーアスリート指定標準記録を満たした競技者。

現状の強化競技者はSABCの4ランクで93名であったが、新規による強化競技者はゴールドアスリート1名、シルバーアスリート7名が4月以降指定予定である。

7. 登録会員規程の改定

尾縣専務理事より、9月の前回理事会に続き、登録会員規程の改定について説明があった。

- (1) 新設のランニング登録会員規程の概要は次の通り。

① 登録会員は、インターネットで本連盟宛に登録申請をする。

② 登録会員は、4月1日時点で満19歳以上の者を対象とする。

③ 登録申請にあたっては、氏名・性別・生年月日・住所(主な居住地としている場所をいう)等を正確に届け出るものとする。ただし、氏名については、本連盟の許可を得た上で、本名に代えて広く通用している通称名を登録事項とすることができる。

④ 登録会員は、5人以上をもってチーム名称の登録ができる。

〔表記例〕

登録会員：鈴木一郎(— ・東京R)

※陸協名(例：東京陸協)の表記はしない。

チーム名称登録：佐藤二郎(Aチーム・東京R)

加藤三郎(Aチーム・広島R)

鈴木四郎(Aチーム・秋田R)

伊藤五郎(Aチーム・沖縄R)

田中六郎(Aチーム・徳島R)

⑤ チーム名称は、全国唯一とする。

⑥ チーム名称を登録したチームは、加入団体ではない。

⑦ 登録会員は、同年度内において重複登録はできない。

⑧ 登録会員は、本連盟が公認する道路競走競技会に出場でき、記録は公認記録とする。

⑨ 登録会員の登録料は、カード決済またはコンビニ決済とする。

登録会員の登録料：1人あたり3,000円/年
 チーム名称の登録料：1チームあたり10,000円/年
 ※登録会員の登録料は、居住地の住所を管轄する
 加盟団体に25%を配賦する。

(2)既存の登録会員規程も次の通り改定された。

①第2条(遵守事項)に「登録申請にあたっては、氏名・性別・生年月日・住所(主な居住地としている場所をいう)等を正確に届け出るものとする。ただし、氏名については、本連盟の許可を得た上で、本名に代えて広く通用している通称名を登録事項とすることができる。」が追記された。

②第6条(登録の種類)と第10条(登録の手続き)から、「小学生登録」「ロードレース登録」が削除された。小学生登録は、現行施行されていないため、ロードレース登録はランニング登録と名を改めて別規程として制定されたため、各条項から削除された。

③第11条(外国人の登録)から、「継続して6か月以上」の文言が削除された。

【報告事項】

1. 第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ)の派遣記録

原田強化委員長より、6月の理事会で承認された「第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ)の日本代表選手選考要項」で、強化委員会一任となっていた派遣設定記録が報告された。

2. 第97回日本陸上競技選手権大会(2013/東京)の参加資格

原田強化委員長より、第97回日本陸上競技選手権大会(2013/東京)の参加資格と参加標準記録が報告された。

3. 第1種・第2種公認陸上競技場のB競技場の取扱い

小池施設用器具委員長より、前回理事会で承認された「第1種・第2種公認陸上競技場のB競技場の取扱い」の期日について、2017年3月末日以降は、B競技場の取扱いを廃止して、基本仕様通りの種別となることが明示された。

4. 血液検査の導入

山澤医事委員長より、ドーピング検査において尿検査に加えて、来年度からは血液検査も行うことが報告された。

5. 安全対策ガイドライン

尾縣事務理事より、陸上競技における「安全対策ガイドライン」が制定されたことが報告された。

2013年度後援大会

日付	大会名	会場名
4月6日(土)	第22回金栗記念選抜陸上中・長距離熊本大会	熊本県民総合運動公園陸上競技場(熊本)
4月20日(土)~21日(日)	第61回兵庫リレーカーニバル	神戸総合運動公園ユニバー記念競技場(兵庫)
4月20日(土)~21日(日)	吉岡隆徳記念 第67回出雲陸上競技大会	島根県立浜山公園陸上競技場(島根)
4月27日(土)~28日(日)	2013日本選抜陸上和歌山大会	紀三井寺公園陸上競技場(和歌山)
4月29日(祝・月)	第47回織田幹雄記念国際陸上競技大会	広島広域公園陸上競技場(広島)
5月3日(祝・金)	第29回静岡国際陸上競技大会	小笠山総合運動公園エコパスタジアム(静岡)
5月11日(土)	第24回ゴールデンゲームズinのべおか	延岡市総合運動公園陸上競技場(宮崎)
5月12日(日)	第23回仙台国際ハーフマラソン大会	宮城
5月19日(日)	第3回高橋尚子杯 ぎふ清流ハーフマラソン	岐阜
6月30日(日)	第28回サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道
7月7日(日)	第26回南部忠平記念陸上競技大会	札幌市円山競技場(北海道)
8月4日(日)	第38回蔵王坊平クロスカントリー大会	上山市蔵王高原坊平クロスカントリーコース・蔵王グリーングラウンド(山形)
8月4日(日)	第10回火の国・阿蘇クロスカントリー大会	阿蘇市観光牧場クロスカントリーコース(熊本)
8月25日(日)	2013北海道マラソン	北海道
9月6日(金)~8日(日)	第34回全日本マスターズ陸上競技選手権大会	佐賀県総合運動場陸上競技場(佐賀)
9月20日(金)~22日(日)	第61回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会	熊谷スポーツ文化公園陸上競技場(埼玉)
10月20日(日)	秩父宮賜杯 第53回実業団・学生対抗陸上競技大会	平塚市総合公園平塚競技場(神奈川)
10月20日(日)	第10回田島直人記念陸上競技大会	維新百年記念公園陸上競技場(山口)
10月27日(日)	高松宮賜杯第62回西日本各県対抗九州一周	九州
~11月3日(日)	駅伝競走大会 グランツール九州2013	
10月27日(日)	第52回全日本50km競歩高島大会	山形
10月27日(日)	第3回大阪マラソン	大阪
11月10日(日)	第29回東日本女子駅伝競走大会	福島
11月17日(日)	第3回神戸マラソン	兵庫
12月15日(日)	2013全日本びわ湖クロスカントリー大会	滋賀県希望が丘文化公園クロスカントリーコース(滋賀)
12月15日(日)	第33回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会	宮城
12月15日(日)	第44回防府読売マラソン大会	山口
12月23日(祝・月)	第32回山陽女子ロードレース大会	岡山
1月1日(祝・水)	第58回全日本実業団対抗駅伝競走大会	群馬
1月1日(祝・水)	第62回元旦競歩大会	東京
1月26日(日)	2014大阪ハーフマラソン	大阪
2月2日(日)	第63回別府大分毎日マラソン大会	大分
2月2日(日)	第68回香川丸亀国際ハーフマラソン大会	香川
2月9日(日)	第54回唐津10マイルロードレース大会	佐賀
2月16日(日)	第48回青梅マラソン大会	東京
2月16日(日)	金栗記念第58回熊日30キロロードレース	熊本
3月16日(日)	岸清一賞国際文化観光都市第35回まつえレディーズハーフマラソン	島根
3月16日(日)	第42回全日本実業団ハーフマラソン大会	山口

※札幌国際ハーフマラソン大会は後援大会を辞退。

強化関連情報

強化委員会

2012年度全国強化責任者会議報告

日時：2012年12月4日（火）13：00～16：00

会場：味の素ナショナルトレーニングセンター
研修室1・2

出席者：尾縣貢専務理事、原田康弘強化委員長、吉儀宏競技運営委員長、強化委員会（副委員長）、協力4団体強化担当者、都道府県陸上競技協会強化責任者

議事：

・強化委員会組織概要

原田強化委員長より、中・長距離とマラソンの統合、およびジュニア育成部から強化育成部への改組について説明があった。

・リオデジャネイロオリンピックにむけた強化方針

原田委員長より、マラソンの復活に注力すること、重点種目の選定、世代間および種目間の連携を強化することなどについて、説明があった。

・第30回オリンピック競技大会ロンドン大会の結果報告

木内副委員長より、ロンドンオリンピックの結果及び、大会に向けた取り組み等の報告があった。

・主要競技会日程

最終的な2013年度競技会日程は、2013年3月の理事会後に発表されることが報告された。また、来年は国際大会が多く予定されており（世界選手権、アジア選手権、東アジア競技大会、ユニバーシアード等）、特に国民体育大会と東アジア競技大会の日程が近いことについての各陸協強化担当者に協力を求めた。

・国民体育大会の開催種目

第69回（2014／長崎）大会および第70回（2015／和歌山）大会での開催種目について検討を行った。

・ジュニア世代の強化・育成事業および各種大会の選考基準

これまでの強化指定選手という名称を変更し、オリンピック育成競技者とする事、第8回世界ユース陸上競技選手権大会（ドネツク）の選考について説明があった。

・競技運営関連

不適切なスタート動作について、国際陸連の見解とそれに対する日本陸連の見解について説明があった。

・その他

味の素ナショナルトレーニングセンターの利用方法およびジュニアオリンピックの参加標準記録について報告された。

話題提供：第67回国民体育大会（岐阜）で競技別総合

優勝を果たした岐阜県強化の取り組みについて、日下部光氏（岐阜陸上競技協会強化委員長）より、お話をいただいた。

第8回世界ユース陸上競技選手権大会

（2013／ドネツク）日本代表選手選考要項

大会期日：2013年7月10日（水）～7月14日（日）

開催地：ドネツク（ウクライナ）

1. 参考競技会

（1）トラック&フィールド種目

- 1) 第66回全国高校総体陸上競技大会都道府県及びその支部予選会（2013）
- 2) 第66回全国高校総体陸上競技大会ブロック予選会（選考会議前日まで）
- 3) 2013年日本グランプリシリーズ各大会
- 4) 第97回日本陸上競技選手権（2013／東京）
- 5) 上記参考競技会に対象種目が開催されていない下記種目については、別途競技会を指定し、参考競技会とする。男子（3000m、2000mSC）、女子（2000mSC）

（2）競歩

- 1) 第24回 ジュニア選抜競歩大会（2013／神戸）
- 2) 第52回 全日本競歩輪島大会（2013／輪島）
- 3) 第66回全国高校総体陸上競技大会都道府県及びその支部予選会（2013）※女子5000m競歩のみ
- 4) 第66回全国高校総体陸上競技大会ブロック予選会（選考会議前日まで）※女子5000m競歩のみ

2. 選考基準

（1）トラック&フィールド種目

- 1) 参考競技会において強化育成部が定めた派遣設定記録を突破した競技者。
※派遣設定記録：過去5大会における6位入賞平均記録
- 2) 参考競技会以外の競技会において派遣設定記録を突破した競技者で、本大会での入賞が期待される競技者。
- 3) リレー種目の代表選手選考は、種目の特性を考慮する。
- 4) 強化育成部が特に推薦する競技者。

（2）競歩

- 1) 参考競技会において強化育成部が定めた派遣設定記録を突破した競技者。
- 2) 参考競技会以外の競技会において派遣設定記録を突破した競技者で、本大会での入賞が期待される

競技者。

3) 強化育成部が特に推薦する競技者。

3. 選考方法

選考基準に則り全ての参考競技会終了後、選考委員会において選考する。

4. 補足

- (1) 種目毎の代表はIAAFエントリールール以内の人数とする。
- (2) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。

第44回ジュニアオリンピック陸上競技大会

実施種目と参加標準記録

期 日：2013年10月25日(金)～27日(日)

(神奈川：日産スタジアム)

実施種目と参加標準記録(表1)

表1 実施種目と参加標準記録

区分	男子		女子	
	種目	標準記録	種目	標準記録
中学3年(A)	100m	10.90	100m	12.30
	200m	22.50	200m	25.50
	3000m	8:46.00	3000m	9:51.00
	110mH (0.914m/9.14m)	14.40	100mH (0.762m/8.00m)	14.40
	★(0.991m/9.14m)	15.10	★(0.762m/8.50m)	14.70
	走高跳	1m91	走高跳	1m63
中学2年(B)	砲丸投 (5.000kg)	14m50	砲丸投 (2.721kg)	13m50
			★(4.000kg)	11m00
	100m	11.20	100m	12.50
	1500m	4:10.00	1500m	4:36.00
	110mH (0.914m/9.14m)	15.30	100mH (0.762m/8.00m)	14.90
	走幅跳	6m35	走幅跳	5m35
中学1年(C)	砲丸投 ★(4.000kg)	14m50	砲丸投 (2.721kg)	12m45
	(5.000kg)	13m00		
	100m	11.80	100m	12.80
共通	1500m	4:25.00	800m	2:18.50
	走幅跳	5m80	走幅跳	5m00
	円盤投 (1.500kg)	37m00	円盤投 (1.000kg)	32m00
	ジャベリックスロー (0.300kg)	1名	ジャベリックスロー (0.300kg)	1名
	4×100mR	1チーム	4×100mR	1チーム

※■は第43回大会との変更箇所 ★は本競技会で採用する規格
※学年と生まれ年が相違している場合は生まれ年に該当する区分にエントリーすること

参加資格：2013年度本連盟登録者で下記(1)～(4)のいずれかに該当すること。

- (1) 指定期間内に上記の参加標準記録に到達した者。
※指定期間については、後日日本陸連HPに公開予定。
- (2) 標準記録の突破に関係なく、それぞれの種目ごとに各都道府県から代表選手1名は出場できる。(同一区分の同一種目に2名以上出場する場合は、すべての競技者が参加標準記録を突破していること。)

(3) リレーは、各都道府県から1選抜チームのみ、参加できる。

(4) 参加標準記録を設けない種目について

男女・共通 ジャベリックスロー

各都道府県から1名のみ、参加できる。

参加制限：1人1種目とする。ただし、リレーは除く。

スタート方法：競技規則162条6・7により、1回目から不正スタートした競技者は失格とする。スターターの合図は英語とする。(「オン・ユア・マークス」、「セット」)

第69回(2014/長崎)・第70回(2015/和歌山)国民体育大会実施種目

12月13日開催の理事会で承認された第69回(2014/長崎)および第70回(2015/和歌山)国民体育大会の実施種目は下記の通りである。

1. 参加人員

(監督2名、選手29名/男子19名、女子19名以内)

2. 国民体育大会実施種目(表2)

表2 国民体育大会実施種目(○印) ※■は2012・2013年実施種目

種目	男子				女子			
	成年	少年			成年	少年		
		A	B	共通		A	B	共通
100m	○	○	○		○	○	○	
200m								
400m	○	○			○	○		
800m	○			○				○
1500m					○		○	
3000m			○			○		
5000m		○			○			
10000m								
110/100mH	○		○		○		○	
400mH	○	○				○		
3000m障害物								
3000m競歩								
5000m競歩				○				
10000m競歩	○				○※1			
走高跳	○			○	○※1			
棒高跳	○	○						○
走幅跳	○	○	○		○	○	○	
三段跳				○				
砲丸投	○		○					○
円盤投				○				
ハンマー投		○			○	○		
やり投	○	○			○	○		○
4×100mリレー			○				○	

※1：成年女子10000m競歩および走高跳には、少年女子Aからもエントリーできる。

※■は2012・2013年実施種目

実施種目数	男子				女子			
	成年	少年			成年	少年		
		A	B	共通		A	B	共通
2014	11	8	5	5	10	6	4	4
2015								
合計	1(リレー)				1(リレー)			
合計	55							

2012年度全国普及育成担当者会議報告

普及育成委員会 盛田和彦

2012年度全国普及担当者会議を、全国47都道府県陸協普及育成担当者参加のもと2012年12月8日(土)13時30分～16時30分、味の素ナショナルトレーニングセンター・大研修室において開催した。

会議は、盛田委員の司会によって進められ、会議の冒頭において繁田委員長から普及育成事業の概要や、全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の2013年度からの日程変更の告知などを中心に挨拶を行った後、会議に入った。また、会議の資料として、「2012年度全国普及担当者会議用資料冊子」「第15回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会資料」を配布した。

会議の概要は以下の通り。

(指導者育成関係)

以下の点について報告がなされた。

1. JAAF ジュニアコーチ (日体協公認指導員) 養成講習会
 - ・今年度の実施状況について
 - 北海道、福島、東京、広島 の4会場にて専門科目講習を開催している。合格者数については、全会場終了時に報告する。
 - ・来年度の実施について
 - 会場数を増やし、より受講しやすい環境を整えられるよう、都道府県陸協にも協力を求めている。各地域陸協で1会場以上実施できるようにしたい。
 - ・募集、告知について
 - 告知は各陸協にて行っても良いが、受付に関しては、日本陸連で行う。陸協にて取り纏めは可能であるが、期日に十分注意することが原則。漏れに関してはどのような理由があっても認められない。
2. JAAF コーチ (日体協公認コーチ) 養成講習会
 - ・今年度の開催について
 - 2012年12月22日～25日に味の素ナショナルトレーニングセンターで専門科目講習を開催予定である。
 - ・来年度の募集について
 - 来年度は2013年12月21日～24日に味の素ナショナルトレーニングセンターで開催予定である。近日内に推薦依頼を送送する。
3. 指導者資格保持者の義務研修受講
 - ・義務研修制度の完全実施について
 - 2013年10月更新者より義務研修の受講の義務化が完全実施される。各陸協に義務研修受講の呼びかけを依頼した。
 - 2012年度より日体協公認スポーツ指導者管理システムを陸協にて利用可能としているため、各陸協にて開催している義務研修に該当する講習会を申請するよう呼びかけた。
4. U-15 指導者講習会について
 - ・開催日程、会場について
 - 2012年11月3日に中央会場(東京)を開催した。1月14日福岡会場、2月10日鹿児島会場、3月2日鳥取会場と開催予定である。
5. 第13回・14回 JAAF コーチングクリニック
 - ・開催日程について
 - 2012年度は第13回を2013年1月26日に東京の味の素ナショナルトレーニングセンターにて、水野信人先生(浜松市立天竜中コーチ)、田内健二先生(中京大)を招いてクリニックを、第14回を2013年2月9日に神戸のアシックス本社にて、杉井将彦先生(浜松市立高校)、河野裕二先生(広島市立三和中)を招いて講習・講義を開催する予定。

(普及関係)

1. 第21回全国小学生指導者中央研修会報告
 - ・当研修会終了について
 - 指導者資格の改訂に伴い、2012年度をもって当研修会を終了とする。今後はJAAF ジュニアコーチ養成講習会へ移行する。
 - 当研修会にて発行した修了証については、JAAF ジュニアコーチ養成講習会専門科目として有効とし、その期限については半永久的である。(更新の必要はない。)
2. “日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会
 - ・29回大会要項案の提示

→第29回大会は28回大会と同様のスケジュールにて、2013年8月23、24日に開催する。

- ・小学校名の使用について
 - 本大会は従来より小学校名の使用を禁止している。近年小学校名を使用したいとの要望も出てきている。文部科学省は現在はその件については関与しないという立場をとっているため、特に問題がないようであれば、30回大会より採用したい。
- ・各都道府県での小学生登録の状況について
 - 今後の小学生登録制度検討に伴い、当会議参加者に挙手にて確認をした。現在、陸協独自で小学生の登録を行っている陸協が15団体、そのうち登録料を徴収している陸協が10団体であった。
- ・全国小学生陸上競技交流大会のソフトボール投について
 - 当面、現状のままソフトボール投を実施する。
- ・スタートの号令について
 - 全国大会では当面、日本語での号令を実施する。変更する場合は、実施年度の2年前に報告をする。陸協での予選会については自由とする。
- 3. “日清食品カップ”全国小学生クロスカントリーリレー研修大会
 - ・15回大会について
 - 申込み方法及び申込み日程の変更を報告した。14回大会までは陸協推薦書の提出→申込みという流れだったが、推薦書と申込書を一括にすることとなる。
 - 研修会会場を、例年ご協力いただいていた呉服小学校より、池田市のアゼリアホールへ変更した。
 - ・16回大会について
 - 開催日程を3月から12月へと大幅に変更した。16回大会は2013年12月7日～8日に開催予定。
 - ・選出方法について
 - 出場チームの選出方法について、選抜制を希望する県がある。昨年の同会議にて、普及育成委員会より選抜制を提案したが、却下されたためチームでの選出となっている。再度、アンケートなどを行う方向で、選出方法については検討を続ける。
- 4. JAAF 発掘プロジェクトクリニック事業
 - ・今後の展望について
 - 2013年度も同様に開催募集をかけ開催予定である。U-18については強化なのか普及なのか明確でないということで、2013年以降はU-12、U-15クリニックのみ開催とする。
- 5. キッズアスリート・プロジェクト「夢のキャラバン隊」
 - ・2012年度をもって55会場で開催した。2013年度は未開催県に絞って、実施したい。
- 6. 第8回全国小学生陸上競技交流大会優秀選手選抜研修会
 - ・計測、交流会について
 - 2012年10月27日～28日に横浜市スポーツ医科学センターにて、骨年齢測定や足圧計測など、普段では行わない専門的な計測を中心に実施した。
 - 交流会のゲストに中央大学の飯塚翔太選手、館野哲也選手を迎え開催。両名とも今夏のロンドンオリンピック代表選手であり、現地での話や、普段から気を付けていることなど、参加選手にとって貴重な交流会となった。
- 7. U-15 トップトレーニングキャンプ
 - ・2012年度も各都道府県から有望な中学生を招待して2013年1月4日～6日に味の素ナショナルトレーニングセンターで開催予定。

今後さらに質問や意見などがある場合は陸連事務局を通じて検討していくことを確認し、会議を終了とした。

普及育成担当者会議の様子



国際陸連 (IAAF) カウンシル会議報告

理事・国際委員長 田中克之 (IAAF カウンシル)

2012年11月、IAAF創立100周年記念行事がバルセロナ (スペイン) で開催されたが、これに合わせ同月21~23日、同地にてIAAF カウンシル会議 (理事会) が開催された。その概要は以下の通りである。なお、今次会議では種々のコミッション報告に基づく問題も取り上げられたが、審議の中心が (1) カウンシル改革 (2) 今後のIAAFのあり方に関する戦略プラン (Strategy Plan) といったIAAFの組織・体制に関わる問題であったこと、またカウンシル改革についてはデアック会長の提案がカウンシル・メンバー多数の反対により退けられたことが今次会議の特色であった。

1 カウンシル改革

前回のカウンシル会議で、デアック会長から「カウンシル・メンバーの選出をIAAF総会ではなく地域陸連で行うことに変更」することを主内容とするカウンシル改革案が出され、同提案検討のための作業部会を設置することが合意された。そして今次会議には、同作業部会及び幹部会 (会長、4名の副会長、財務担当理事で構成) の検討を経て最終案が提示された。

作業部会、幹部会の承認を得て提出された提案であるだけに、多くの議論なく承認されるものと予想されたが、審議が開始されるや「結論を今次会議で求めるのは性急すぎる」など意見が噴出した。

この様子を見たデアック会長から「残念だが、自分の考えは支持を得るに至っていないようである。改革案は自分が会長である2015年までは更なる審議を行わないこととし、自分の後任の会長に今後を委ねることにしたい」との発言がありこの件に関する審議は打ち止めとなった。

2 2013~16年IAAF戦略プラン

IAAFは2003年に2012年までの計画としてWorld Plan (ワールドプラン) を策定し、これに沿ってIAAFの諸活動を実施してきた経緯がある。

2012年が最終年になるため、一部カウンシル・メンバーと事務局幹部で構成される運営委員会が設置され、2013年以降の戦略をどうするかについて2012年初以来検討されてきた。そしてその検討結果 (中間報告) が「2013~16年戦略プラン」 (Strategy Plan) として今次カウンシル会議に上程された。今回上程されたプランは未だ完全なものではなくIAAFの「価値」「使命」「目標」といった総論に留まっており、具体的活動等については更に検討を要する内容のものとなっているが、カウンシルは審議の上、中間報告としての同プランを承認すると共に運営委員会に対し具体的活動等についての検討を継続するよう要請した。

3 コミッション報告

この議題の下では「開発」「競技」「選手」「持続的発展」「マーケティング」「道路競技」「プレス」の各コミッションからの報告が行われた。これらの報告及びカウンシルの対応で注意を引いたのは次の諸点である。

(1) 競技

(ア) ワールド・リレー実施規定

2014年 (及び2015年) にバハマで開催されるIAAF ワールド・リレーに関する実施規定が承認された。この中で、

- ①競技種目は男女とも4×100m、4×200m、4×400m、4×800m、4×1500m とすることとし、女子4×1500mは新たに世界記録対象種目とすることになった。

- ②IAAF世界選手権大会の前年のワールド・リレーの4×100m、4×400mの上位8チーム (男女とも) は自動的に翌年の世界選手権の出場資格を得ることになった。オリンピックも同様に前年の上位8チームが出場資格を得ることになった。

- (イ) 標準記録に達しない競技者 (マラソン及び競歩) の取り扱い
標準記録を突破せず男女1名枠でエントリーする選手が実際に競技会に参加しうするためには、「フィールド競技」では技術代表の承認が条件となっている。今回規定を「マラソンや競歩」にも適用すべく改正提案が承認された。この件については田中より「選手の参加希望を技術代表の判断で断ってしまうよりも、「制限時間制 (例えば男子の場合3時間経過した段階で走行をストップさせる)」を採用する方が良いのではないかと提案したが同調者はおらずまた「ランニング中の者を時間が来たからといって止めさせるのは余り美しい光景ではない」との意見もあり結局不採用となった。

(ウ) ハンマー投ワールドチャレンジ勝者へのワイルドカード適用

世界選手権の前年に行われるダイヤモンドリーグ各種目の勝者は翌年の世界選手権への出場資格を得ることが出来る (いわゆるワイルドカード)。ハンマー投はダイヤモンドリーグ種目となっていないためこの恩恵は受けていない。今次カウンシル会議では「世界選手権の前年に開催されるハンマー投ワールドチャレンジ勝者は翌年の世界陸上選手権への出場権を得る」ことが承認された。

(2) 選手

- ・技術代表の助走方向変更権限と投てき競技審判員の年齢制限

このコミッションからは①フィールド競技において、風向き等を含めた問題に対処するため技術代表に助走の向きを変更できる権限を与えるべきである、②投てき競技の審判員には年齢制限を設けるべきである、との提案が行われた。

これについては、「IAAF規則では風向きは跳躍場所変更の理由にならないとしている」「テレビカメラの移動を考えると変更は実際上困難である」あるいは「事故が起こるのは年齢によるものではなく不慣れさによる」というような意見が出され、この2点については技術委員会の検討に委ねることになった。

4 WAS (IAAF主権) 大会の開催都市決定

次の通り開催都市が決定された (いずれも単独立候補)

- ・世界クロスカントリー選手権 (2015年) 中国・貴陽
- ・世界ユース選手権 (2015年) コロンビア・カリ

5 その他

ガブリエル事務総長より、次の説明が行われた。

- 1 IAAF主権のマラソン、ハーフマラソン世界選手権を市民レースと同時開催することにより陸上競技への関心を高めることを検討中である。2014年のハーフマラソン (コペンハーゲン) は既にその方向で動いており、2015年の北京世界選手権も前向きに検討中である

- 2 マラソンは陸上競技の成長種目でもあり、マラソンに関係するIAAF、AIMS、世界マラソンメジャーズが一緒になってWorld Road Runningという名前のWEBサイトを創設予定である。

カウンシルは、これらの動きは陸上競技の発展の上で極めて望ましい動きであると高く評価した。

2012年競技会運営研修会報告

～大規模マラソンを巡る諸問題～ ～イベントプレゼンテーションとアナウンス～

競技運営委員会

標記研修会を2012年11月24日（土）～25日（日）の2日間にわたって味の素ナショナルトレーニングセンター研修室にて開催した。

第1日目 11月24日（土）

1. あいさつ 理事・競技運営委員長 吉儀 宏

各種大会の円滑な競技運営に向けての研修を行う。研修では、プロのマスメディアのパネルディスカッションを行う。日本の競技運営は、世界に引けを取らない。また、大規模マラソンについても、研修して欲しい。現在の陸連登録者の増を目指して新しい登録制度を検討中である。



2. 事務連絡 幹事 杉本太郎

資料確認・アンケート・資料頒布・日程説明。

3. 合同研修

研修Ⅰ 映像制作現場（中継テレビ・場内映像）からみた競技会運営

- | | |
|------------------|-------|
| (1) NHK 報道局 | 森谷 淳氏 |
| (2) TBS テレビスポーツ局 | 山上昌広氏 |
| (3) (株) アライブ | 川本 信氏 |
| (4) スポーツアナウンサー | 深山 計氏 |



以上4名のコメントから以下の3つのテーマについて、それぞれの立場から陸上競技の運営について意見を述べていただいた。

（テーマⅠ）番組制作の立場から、陸上競技をどのように見ているか—何に重点

的において伝えようとしているか—

NHKであると、陸上競技の魅力や、どう陸上競技を視聴者が惹きつけられるよう工夫するか、民放（TBS）ではそれにプラスし、スポンサーとの関わり、視聴率の問題等、場内映像ではテレビとは違う映像をどう見せるか、場内で生で見られる立場の観客にどう見せるか、ラジオ放送では、画面の見えない状況のリスナーにどう分かりやすく伝えるかのノウハウの紹介があった。

（テーマⅡ）競技運営との関係（連携）に関して—苦労する点、連携して欲しいこと—

共通に出た項目としては、連携・事前打ち合わせの必要性であった。いかに選手が安全・安心して競技に取り組めるかといった内容であった。

（テーマⅢ）見（魅）せる競技会実現のために

①場内映像と放送を出来るだけ合わせたほうが場の盛り上がり伝えることができる。②100mスタートを映している時にCMが入ってくると、場内の盛り上がり下がる、事前に打ち合わせが必要である。③ロードレースを如何に警察、放送局、競技役員と調整して進められるか。④同時展開競技等制約がいっぱいある中で初めて見に来た人を含めて、時間制約の中でいかに工夫して分かりやすく伝えるか。などがディスカッションの中で意見交換された。

4. 競技部研修（第1日目）

研修Ⅱ 大規模マラソンの現状 競技部委員 関根春幸

（1）既に行われている大規模マラソンの現状

①関根委員 全国各地開催の大規模マラソンの実施状況、東京マラソンの運営実例をもとに問題点の提供。

②赤峰幹事 大規模マラソンにおける観客整理・応援マナーについて問題点の提起。

③宮田委員 香港マラソンの事例。（海外の開催事例）

④養母幹事 高橋尚子杯ぎぶ清流ハーフマラソンの事例。

（2）大規模マラソンの課題（グループ討議）

参加者を6グループに分け、問題点の洗い出しを行った。翌日の討議テーマを決めるため、ここではできるだけたくさんの各都道府県で抱えている課題を発表していただいた。

5. 審判部研修（第1日目）

研修Ⅱ イベントプレゼンテーションの基本

審判部 委員 中島 剛

①イベントプレゼンテーションの定義、②イベントプレゼンテーション実施への手順、③イベントプレゼンテーション・プラン（EPプラン）作成のポイント、④プレゼンテーションの実施方法と留意点、の4点について様々な過去の事例を示しながら、講義を行った。



6.1日目挨拶 理事・競技運営委員長 吉儀 宏

EPに関して、アナウンサーにお願い。プログラムを持っている人へのアナウンスに偏りがちであるが、持っていない人に対しても伝えられるような配慮をしてほしい。サービスポイントを事前準備して欲しい。

委員 宮田英明

2月の全国会議に向けてガイドラインを作成中。大きく下記の6項目を中心にまとめていく予定；①ランナー教育、②運営全般、③コース設定、④医事関連、⑤天候対策、⑥役員関連

閉会のあいさつ

競技部長 阿保雅行

謝辞。

第2日目 11月25日(日)

1. 競技部研修 (第2日目)

研修Ⅲ 大規模マラソンを巡る諸問題の解決に向けて(グループ討議) 前日の討議内容により、以下のテーマで課題解決に向けて討議を行った。



1班…関係団体との事前協議について

2班…①コース設定について

②警察対応について

3班…競技役員、ボランティアの人員確保

4班…ルールにないことで競技者に周知すること

5班…市民ランナーに対する陸連ルールの適用範囲

6班…インフラ整備(給水所、トイレ、救護所)

2.

研修Ⅳ 大規模マラソンを巡る諸問題の解決に向けて

(1) 長野マラソンの現状

長野マラソン事務局 大西健文氏

15回行われている人気大会である長野マラソンの①大会運営組織、②ボランティア、③アンケートの実施について、④救護体制、⑤緊急時の対応、⑥終関門の見直し、⑦大会の魅力の底上げが必要などについて講義を行った。



(2) ランニング登録会員について

事務局 鈴木英穂

未登録者20万人の会員化を目指す、ランニング登録会員について、経緯と進捗状況について発表。その後参加者からさまざまな疑問点について質疑応答があった。



(3) 大規模マラソンガイドライン作成プロジェクトについて

3. 審判部研修 (第2日目) 11月25日(日)

研修Ⅲ 応用アナウンス事項・実技 委員 黒澤達郎

①フィールド種目の特性とアナウンス上の留意点、②フィールド競技アナウンスのタイミング、③フィールド競技アナウンスの優先順位と



留意点、④フィールド競技における6つのイベント及び課題、⑤応用アナウンスの実際について、講義または実技講習において重要なポイントについて説明した。

研修Ⅳ フリーディスカッション・事例討議

以下質疑応答の項目を抜粋した。

Q:トラック紹介例の疑問点 A黒澤:解説例で回答

Q:得点競技のアナウンスはどうすればよいか。 A黒澤:得点の発表もケースバイケースであるので、都度やり方を統一するなどの対応が必要。

Q:ワンバイワンの並べ方は何がベストか。「セカンド記録」の解説は必要か。 A黒澤:並べ方については事前にEPプランに示すことが重要。現場審判員との連携も必須。競技会の性格によるが、専門用語の解説アナウンスも必要。

Q:フィールド競技を優先し、トラックを止めるケースで、アナウンサーにその権限はあるか。 A中島:競技の進行を止める権限はアナウンサーに与えられていないが、実質的に行なっているのが現状ではないか。本来は競技進行とアナウンサー主任が連携して行なうべきである。特にテレビ中継が入っている時は、事前準備の段階での議論が必須である。

Q:ライブリザルトの活用について。 A中島:競技場の技術面を確認すること。大規模大会では必要。方法は状況に応じて、対応せざるを得ない。

あいさつ

特別委員 井上有美

参加者への謝辞。アナウンサー技術向上のために、テレビのアナウンスを参考にして欲しい。語彙の違い等に留意して欲しい。

閉会のあいさつ

審判部長 鈴木一弘

謝辞。

日本陸連 アスレティック・アワード2012 報告

事 務 局

2012年12月13日(木)16時～「日本陸連アスレティック・アワード2012」をセルリアンタワー東急ホテルにおいて開催した。

本年は6回目の開催で、2012年日本陸上競技選手権大会各種目優勝選手、第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)入賞選手、2012年日本記録樹立選手等選手46名の他、スポンサー各社、本連盟理事関係者、メディア等を含め、238名の方にご出席を賜りました。

日本陸連アスレティック・アワード2012

受賞者

【アスリートオブ・ザ・イヤー】

「2012年においてその活躍が最も顕著であった競技者」



アスリート・オブ・ザ・イヤーを受賞した室伏広治選手

方をはじめ、応援してくださった方々に感謝します。今年はいかにピークをオリンピックに合わせられるかに集中していました。次のリオオリンピックを目指すとは、とても言える年齢ではないので、まずは来年の日本選手権を狙って頑張りたいと思います」

【優秀選手賞】

「2012年において優秀な成績を取めた競技者」



優秀選手賞の中本健太郎選手

マラソン界は賑わいつつあり、明るい兆しが見えてきた気がします。その中でレベルアップをしたマラソンをして、しっかりと国内選考を勝ち進み、また世界の舞台で走りたいです」

男子4×100mリレー

山縣亮太(慶應義塾大学)、江里口匡史(大阪ガス)、高平慎士(富士通)、飯塚翔太(中央大学)第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)男子4×100mリレー5位入賞。予選においてオリンピック最高記録、日本歴代2位の38秒07を記録。

【山縣亮太選手 受賞のコメント】

「こうやって世界の舞台を経験させていただいたので、チームを引っ張っていける存在にならないといけません。そういう自覚を持った選手になれるように成長したいです。オリンピックで感じたことや反省点を、モスクワ世界選手権に生かしたいです。リレーは本当にいい選手が揃ってきて、充実してきており、メダルを十分に狙える位置にいると思います。しっかり狙っていききたいです」

【江里口匡史選手 受賞のコメント】

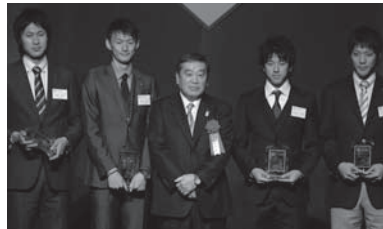
「今年はオリンピックの年でしたので、“勝負の年だ”と、ものすごく強い気持ちを持って臨みました。ですが、このような賞を頂くことができてありがたいと思う反面、力を出し切れなかったという思いも残りました。もう一度自身を見つめ直し、世界大会等を通して、鍛え上げていきたいです。世界で戦うためにもまずは100m9秒台。個人の走力を上げて、リレーにも繋げていきたいです」

【高平慎士選手 受賞のコメント】

「4年前からいっぱい苦しい思いを味わってきて、自分がロンドンオリンピックのメンバーに入れるかも不安でしたし、逃げ出したい時もありました。ですが、3人メンバーが変わっても、チームが丸となり結果を出すことができたので、いろんな人に感謝したいです。自分にとってもいい財産になりました。来年は、ずっと言い続けている200mの日本記録更新をそろそろ…。19秒台突入を目指したいです」

【飯塚翔太選手 受賞のコメント】

「今季は、日本選手権前にケガをするなどいろいろありながらも、オリンピックに出場できて、自分自身がすごく成長できた1年になりました。リレーでは4走を走りましたが、次はもうちょっと仕事をできるようにリベンジを。4走で順位を上げたり、逃げ切ったりと活躍を見せたいです。短距離界は、強い選手がどんどん出てきているので楽しみ。みんなで強くなっていきます」



優秀選手賞を受賞したロンドン・オリンピック4×100mリレーメンバーと授与者の株式会社アシックス・和田清美取締役会長

【新人賞】「2012年の活躍が顕著であり、その将来が期待される競技者」

東京運動記者クラブ選出2名

男子 山縣亮太(慶應義塾大学)1992年6月10日生

第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)男子100mに出場。オリンピック日本男子歴代最速の10秒07をマーク。

【山縣亮太選手 受賞のコメント】

「新人賞と優秀選手賞、2つも受賞できて光栄に思っています。世界のファイナルは、昔は夢物語だったのですが、ロンドンで課題が見つかって、手の届くところにあるなど感じました。モスクワでは、さらに成長し、世界のファイナルを現実のものにしたいです。記録は、課題を克服していけば必然的に付いてくるものだという認識があるので、あまり気負わずに強くなりたいと思います」



新人賞を受賞した山縣亮太選手



女子 土井杏南 (埼玉栄高校)

1995年8月24日生
第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)に戦後最年少の選手として女子4×100mリレーに出場。6月の日本選手権では、女子100mで2位入賞。

【土井杏南選手 受賞のコメント】

「このような賞を頂いたのは光栄なことなので、これからまた頑張りたい。オリンピックは、目標にしていたものだったのですが、世界との差を感じました。やはりまだまだだなと思いました。来季は、高校ラストイヤーなので、インターハイもしっかり戦って、その先の世界の舞台にも挑戦していきたいです。自分と同じ高校生が頑張っているの、負けていられないという思いで頑張ります」

新人賞を受賞した土井杏南選手

です。オリンピックは、目標にしていたものだったのですが、世界との差を感じました。やはりまだまだだなと思いました。来季は、高校ラストイヤーなので、インターハイもしっかり戦って、その先の世界の舞台にも挑戦していきたいです。自分と同じ高校生が頑張っているの、負けていられないという思いで頑張ります」

本連盟選出の競技者 1名

ディーン元気 (早稲田大学)

1991年12月30日生

第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)男子やり投10位。4月の第46回織田幹雄記念国際大会で日本歴代2位の84m28を記録。6月の日本選手権男子やり投では初優勝。

【ディーン元気選手受賞のコメント】

「今年の成績が認められたのかなとうれしく思います。今季はオリンピックに出ることが大事だったので、

本当に大きい壁を1つ越えることができ、次のステップに進めたいと思います。今となっては(オリンピックは)過去のことですけど、悔しい思いもしたので、それをしっかり頭の中に残して、「日本のやり投を世界に」という思いを強く持って、次に向かって頑張っていきたいと思います」

【特別賞】

「陸上競技を通じた活動や活躍が広く社会に対して貢献したと認められた者もしくは団体」



村田機械株式会社 1983年1月より開催の全国都道府県女子駅伝競走大会において、1989年の第7回大会より25年以上の永きに亘りナンバーカードスポンサーとして、女子中長距離選手の強化育成と競技の普及に貢献した。

【村田機械株式会社・武田靖史取締役業務支援本部長 受賞のコメント】

「このような過分な賞を頂戴したことを大変うれしく思っているとともに重みのある賞であることを実感して

います。私どもは7回から本大会を協賛して約25年になります。

本日は印象に残ったエピソードをひとつ紹介致します。19回大会(2001年)の時に前年のシドニーオリンピック女子マラソンで金メダルを獲得した高橋尚子選手がゲストとして来て下さり、閉会式ですばらしいスピーチをしてくれました。自分は高校生の時にはじめてこの大会に出場し岐阜チームの第2区を走ったけれども47人中45番だった。平凡なランナーであっても一生懸命練習をし、夢を持ち、目標をかかげて世界にチャレンジすれば、その夢はかなうと多くの後輩に話してくれました。この大会は中学生から参加できる大会です。お姉さん方から話をきけて一緒に走れる中で、大いに自分



新人賞のディーン元気選手と株式会社ナイキジャパン・高橋オリバースポーツマーケティングディレクター

自身が成長し、実際にこの大会をきっかけに世界にはばたいていった多くの選手がいる。私ども村田機械は開催地京都の地元企業として、この素晴らしい人材育成に寄与する女子駅伝を企業として力の続く限り応援し、支援していきたいと思っています。本日はありがとうございました」



アスレティック・アワード2012 受賞者

国際陸上競技連盟 前事務局長 ピエール・バイス氏の特別表彰

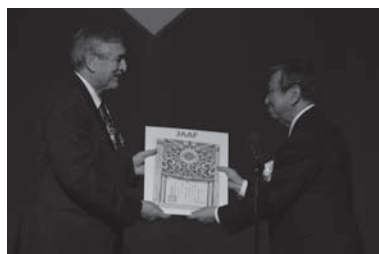
第67回国民体育大会(岐阜)時の10月6日(土)に授与式を行った国際陸上競技連盟前事務局長ピエール・バイス氏の秩父宮章を来日のスケジュールにより、日本陸連アスレティック・アワード2012の場を借りて永年の日本陸上界に対する功績を称え、特別表彰として授与致しました。

【ピエール・バイス氏の受賞のコメント】

「河野会長、そしてご来賓の皆様。本日、この会にお招き頂き、栄えある秩父宮章をご授与頂きました事を大変光栄に存じます。

国際陸上競技連盟は今年100周年を迎えましたが、過去100年の歴史の中で、日本とIAAFは揺ぎない関係を築きあげ、パートナーシップの完璧な例を構築したと言えるでしょう。私は1980年9月に8カ国対校陸上競技大会のために初来日しました。日本はスポーツの国であり、陸上の「ホーム・カントリー」です。日本ではIAAFの世界大会が6回開催されています。1985年広島の世界大会・マラソン・カップ、1991年東京の世界選手権、1997年福岡のグランプリ・ファイナル、1999年前橋の世界室内選手権、2006年福岡の世界クロスカントリー選手権、そして、2007年大阪の世界選手権が挙げられます。我々は再び日本に戻ってくる事を熱望しています。

過去25年間、私は幸運にも陸上の世界で生きる事が出来、私なりに精一杯の努力を積み重ねて参りました。今回の私の受章は、陸上が世界をひとつにし、生まれや経歴に関係なく、人々をひとつに出来る競技であるという事の証だと思っています。皆様、本日は有難うございました」



河野洋平会長より秩父宮章を授与されるピエール・バイス氏



ピエール・バイス氏よりお礼としてバトンを受け取る河野洋平会長

2012年度「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」について

事務局

2006年11月の東京会場を皮切りに、毎年全国各地で行っている「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」。今年度は9月からスタートし、全国9会場+離島の全10会場で開催しました。本時報では、第8回開催の佐賀会場、第9回開催の岡山会場、そして今期最後の開催となった第10回開催の宮古島会場までの報告を行います。2012年度終了時点では、全国55会場で26,453人の児童、延べ255人の選手に参加していただきました。

■佐賀会場

日時：2012年11月26日（月）
場所：佐賀市立神野小学校（児童数：760人）
後援：佐賀市・佐賀市教育委員会
運営協力：一般財団法人佐賀陸上競技協会
特別協賛：株式会社ナイキジャパン
参加選手：短距離・廣瀬英行（富士通）、ハードル・八幡賢司（モンテローザ）、跳躍・衛藤昂（鈴鹿工業高専）、投てき・田中宏昌（モンテローザ）
前日からの雨の影響で、校庭に水たまりができてしまった佐賀会場は今年度開催会場の内唯一、体育館での開催となりましたが、760名の子どもたちには、校庭よりさらに間近に選手のパフォーマンスを見てもらうことができました。また今回は会場となった神野小学校の卒業生である廣瀬英行選手が参加してくれたことで、努力すれば、夢が現実のものとなることを先輩の姿を通して知ってもらえたのではないかと思います。

選手のデモンストレーションは、廣瀬選手が6年生と30m走、投てきで参加してもらった田中宏昌選手にも急ぎよ、5年生との30m走対決をしてもらいました。子どもたちにとっては八幡賢司選手のハードルの高さにも圧巻。他会場と同じように驚きの声があがりました。田中選手の投げたボーテックスは体育館の壁高くを直撃、その高さにも外だったらどのくらい飛んだのだろうと子どもたちは想像していたようです。体育館の開催でさらに盛り上がったのは走高跳。間近に見る衛藤昂選手のパフォーマンスに大歓声が上がりました。

5年生・6年生が参加して行ったレッスンや最後のリレーは、スペースが限られた体育館では、みんなが思う存分に身体を動かしたり、代表になったことももちろん最高の「走り」を見せることが難しかったかもしれませんが、みんな元気よく取り組んでいました。

体育館でのプログラムを終えた後は恒例の給食タイム。給食終了後に雨水がはけた校庭に連れ出された選手が子どもたちと一緒に昼休みを過ごす姿が印象的な会場となりました。



体育館の中ではハードルの高さが更に際立ちます



変則リレーでも、代表選手の懸命の走りに大歓声

■岡山会場

日時：2012年11月30日（金）
場所：岡山市立福浜小学校（児童数：931人）
運営協力：一般財団法人岡山陸上競技協会
特別協賛：株式会社ナイキジャパン
参加選手：短距離・飯塚翔太（中央大学）、ハードル・安部孝駿（中央大学）、跳躍・久保田聡（モンテローザ）、投てき・畑瀬聡（群馬総合ガードシステム）
岡山会場は、ロンドンオリンピック4×100mリレーに出場した飯塚翔太選手、地元岡山県出身の安部孝駿選手、そして、畑瀬聡選手、久保田聡選手の4名が参加しました。

デモンストレーションでは飯塚選手がパワフルな走りを見せ、安部選手は軽やかなハードリング、畑瀬選手が砲丸投、ボーテックス投で大投てきを披露、そして久保田選手の2mを超える跳躍に、児童からは大きな歓声が沸き起こりました。レッスンでは、

選手のわかりやすい指導により、子どもたちも夢中になって取り組んでいました。選手と児童がチームを組んでのガチンコリレー対決では、大接戦の末、飯塚選手率いるチームが優勝し、会場は大変な盛り上がりを見せました。



安部選手が子どもたちに指導



飯塚選手と児童のバトンパス

■宮古島会場

日時：2012年12月7日（金）
場所：宮古島市陸上競技場（児童数：400人）
共催：宮古島市教育委員会
後援：宮古島市
運営協力：宮古島市陸上競技協会
特別協賛：株式会社ナイキジャパン
協賛：日本トランスオーシャン航空株式会社
参加選手：短距離・江里口匡史（大阪ガス）、ハードル・八幡賢司（モンテローザ）、跳躍・醍醐直幸（富士通）、投てき・海老原有希（スズキ浜松AC）

今期、最終会場となった宮古島は2010年より特別枠として実施している離島プロジェクトの一環として開催しました。新しく改修された宮古島市陸上競技場で児童を走らせたい、という地元からの強い要望により、今回は初の陸上競技場での実施となりました。宮古島の7つの小学校の児童が一同に集い、ロンドンオリンピックに出場した江里口匡史選手や海老原有希選手、北京オリンピックに出場した醍醐直幸選手、そして2012年110mH日本選手権覇者の八幡賢司選手と楽しい時間を過ごしました。

デモンストレーションでは江里口選手が大会さながらの素晴らしいダッシュを見せ、チャレンジした児童を悠々と抜き去りました。八幡選手が跳ぶハードルの高さには感嘆の声が響き、力強いハードリングは圧巻でした。海老原選手がやり投で大投てきを披露すると、児童も負けじとボーテックスを力投しました。そして醍醐選手のしなやかな跳躍には、児童は身を乗り出していました。レッスンでは、選手からのアドバイスを実践しようとして、広い競技場で目を輝かせて動き回る児童の姿が見受けられました。プログラムの最後は、選手と児童がチームを組んでのリレー対決。応援する児童達もリレー選手を追ってフィールドを駆け回り、海老原選手チームの勝利でクライマックスを迎えました。



競技場で実施するとリレーの雰囲気も随分変わります



投てきレッスン中の海老原選手と子どもたち

大会観戦ガイド

天皇盃第18回全国都道府県対抗 男子駅伝競走大会

- ▼日時：1月20日（日）12時30分スタート
- ▼コース：広島市平和記念公園前を出発、平和大通り、宮島街道を西進し、中国電力大野研修所前を折り返し、平和大通り、城南通りを経由、広島市平和記念公園前を決勝とする7区間、48.0kmのコース。
- ▼アクセス：広島市平和記念公園
JR広島駅から南口バス乗り場A-3ホームより、広島バス24号線吉島営業所または吉島病院行き「平和記念公園」下車、広島電鉄「袋町」下車徒歩5分、「原爆ドーム前」下車徒歩5分
- ▼区間・コース：7区間48.0km
 - ・第1区7km（広島市平和記念公園前－広電井口駅東）
 - ・第2区3km（広電井口駅東－海老園交差点）
 - ・第3区8.5km（海老園交差点－宮島口ロータリー）
 - ・第4区5km（宮島口ロータリー－JR阿品駅南）
 - ・第5区8.5km（JR阿品駅南－広島工大高前）
 - ・第6区3km（広島工大高前－草津橋）
 - ・第7区13km（草津橋－広島市平和記念公園前）
- ▼テレビ放映予定：NHK 総合
1月20日（日）12時15分～
- ▼問合せ先：天皇盃全国男子駅伝事務局
TEL082-292-0601 / FAX082-292-0680
- ▼大会ホームページ：<http://www.hiroshima-ekiden.com/>

第32回大阪国際女子マラソン大会 兼第14回世界陸上競技選手権大会 代表選手選考競技会

- ▼日時：1月27日（日）12時10分スタート
- ▼会場（スタート・フィニッシュ）：大阪・大阪市長居陸上競技場
大阪市東住吉区長居公園1-1 TEL06-6691-2500
- ▼コース：長居陸上競技場～昭和町～今川2～大池橋～勝山4～森ノ宮～OBP～北浜～大阪市役所～御堂筋・道頓堀橋南詰折り返し～淀屋橋～片町～大阪城公園～森ノ宮～勝山4～大池橋～今川2～昭和町～長居陸上競技場（42.195km）
- ▼アクセス：大阪市長居陸上競技場
地下鉄御堂筋線「長居駅」、JR阪和線「長居駅」または「鶴ヶ丘駅」下車
- ▼テレビ放送予定：関西テレビ系（全国ネット）
1月27日（日）12時00分～
- ▼問合せ先：大阪国際女子マラソン大会事務局
TEL06-6633-9632 / FAX06-6633-2293
- ▼大会ホームページ：<http://www.osaka-marathon.jp/>

2013日本・中華台北交流ジュニア室内陸上競技大阪大会 2013日本ジュニア室内陸上競技大阪大会

- ▼日時：2月2日（土）10時00分競技開始（予定）
2月3日（日）9時30分競技開始（予定）
- ▼会場：大阪・大阪城ホール
大阪市中央区大阪城3-1 TEL06-6941-0345
- ▼アクセス：JR大阪環状線大阪城公園下車西へ徒歩5分
- ▼競技種目：
2月2日（土）
交流ジュニア室内陸上 男子 60m 60mJH (991mm) 走幅跳
女子 60m 60mH (838mm) 走幅跳
日本ジュニア室内陸上
中学生の部 男子 60mH (914mm) 走幅跳 棒高跳
女子 走幅跳
ジュニアの部 男子 60m 60mH (1m067)
女子 60m 60mH (838mm)
2月3日（日）
日本ジュニア室内陸上
中学生の部 男子 60m 800m
女子 60m 60mH (762mm) 800m
ジュニアの部 男子 1500m 走高跳 棒高跳 走幅跳
三段跳
女子 1500m 走高跳 棒高跳 走幅跳
- ▼問合せ先：大阪陸上競技協会
TEL06-6697-8899 / FAX06-6697-8766
- ▼大会ホームページ：<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1013/>

第48回千葉国際クロスカントリー大会 兼第40回世界クロスカントリー選手権 大会日本代表選手選考会

- ▼日時：2月10日（日）
- ▼会場：千葉・千葉市「昭和の森」
千葉市緑区土気町22 TEL043-294-2884
- ▼アクセス：JR土気駅下車千葉中央バス「大網駅行」で「昭和の森」下車（当日土気駅北口～昭和の森無料臨時バスの便あり）
- ▼種目・スタート時刻

中学の部	女子3km	10時40分
	男子3km	11時00分
ジュニアの部	男子4km	11時20分
	男子8km（選考種目）	11時50分
	女子5km（選考種目）	12時40分
一般の部	男子12km（選考種目）	13時10分
	女子8km（選考種目）	14時00分
	男子4km	14時40分

- ▼大会ホームページ：<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1015/>

JAAF 富山陸上競技協会

TOYAMA

〒930-0887富山市五福5区1942 アオイスポーツハウス内
TEL : 076-442-1235 FAX : 076-442-1235
http://homepage2.nifty.com/T-R-K/index.html

TOYAMAスプリングラン 2013の予定
昨年から、クロスカンントリー大会から、スプリングランに名称変更をした大会です。趣旨は、冬場のトレーニングからいよいよトラックシーズンに入る最初の大会です。3月31日(日)、富山県総合運動公園陸上競技場及び付設クロスカンントリーコースで開催致します。富山県は、冬場雪のため3月中旬までタータンの使用が出来ませんので今まで冬季間に練習してきた事を確認し、今年一年間の目標を定める大会になります。昨年、マラソンプームで男女、年齢を問わずたくさんの方がマラソンを楽しんでおいていますが、正しいフォーム、姿勢、食事を含む栄養等の講義も計画しています。近県からも多くの皆さんに参加をしていただくためにいろんなアイデアを考えていますのでご期待ください。

JAAF 一般財団法人静岡陸上競技協会

SHIZUOKA

〒420-0839静岡市葵区鷹匠1-14-31 吉野寿ビル2F
TEL : 054-253-9801 FAX : 054-253-9801
http://www2.wbs.ne.jp/~nagata/t&f/

新しい年を迎え、本県の陸上界も更に飛躍の年にしたいと考えています。今年はモスクワで世界陸上競技選手権大会が開催されます。昨年のロンドンオリンピックに続いて一人でも多く出場権を獲得しようと、県民・陸協関係者は気合が入っています。昨年暮れには師走の駿河路(静岡市)を第13回しずおか市町対抗駅伝競走大会が全県全ての地城39チームが参加し、沿道の熱い声援を受けた。今回県西部勢が上位を独占し層の厚さを見せつけた。現在、冬季花形の駅伝・ロードレース(県西部ロードレース・御殿場駅伝・富士宮駅伝・中日浜名湖一周駅伝・浜松シティマラソン・静岡駿府マラソン)が3月まで連なり、陸上ファンは見逃せません。
(文責:広報報道委員長 橋本美智夫)

JAAF 一般財団法人石川陸上競技協会

ISHIKAWA

〒920-1397能美市来丸町ワ50 物見山陸上競技場2階
TEL : 0761-51-3222 FAX : 0761-51-3222
http://gold.jaic.org/jaic/member/ishikawa/index.htm

11月4日(日)石川県駅伝大会兼全国高校駅伝予選会が小松ドームを発着点とする新コースで開催。11月18日(日)には北信越高校駅伝同コースで開催。全国大会には男子・遊学館高校、女子・星陵高校が県代表として参加しました。平成25年元旦に金沢城を一周する第75回石川県耐継走選手権大会を開催。新春の始まりです。その後県内各地では耐実駅伝大会が開催されます。第37回全日本競歩能美大会がアジア20km・日本学生20km競歩・世界陸上選手権20km代表選考会を兼ねて3月10日(日)に、また4月20、21日(土・日)には第97回日本選手権50km競歩・全日本競歩輪島大会・世界陸上選手権50km競歩代表選考会・ジュニア・ユース競歩大会を開催します。
(文責:副理事長 大岩為一)

JAAF 一般財団法人愛知陸上競技協会

AICHI

〒460-0012名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル7F
TEL : 052-249-4363 FAX : 052-249-4366
http://www.aichi-rk.jp/

全国高校駅伝では、豊川高校が男子初制覇、女子2位の活躍を見せた。新春の全国都道府県対抗駅伝は、昨年の男女入賞をステップに上位を期待している。女子駅伝の京都へは、応援バスツアーを計画し現地で声援。男子駅伝は昨年の反省をもとに、チーム一丸となつてのレースを期待している。伝統ある第67回名岐駅伝競走は中部・北陸地区から一般37チーム、高校51チームの参加で2月3日に実施する。モスクワ世界選手権女子マラソン代表選考レースの「名古屋ウィメンズマラソン」を3月10日に開催する。女性のための世界最大のマラソンとして1万5千人が同時にスタートします。参加の皆さんが思い出となるマラソンを目指して準備・運営します。

JAAF 一般財団法人福井陸上競技協会

FUKUI

〒910-0017福井市文京3-11-8
TEL : 0776-25-0590 FAX : 0776-25-0591
http://www4.fctv.ne.jp/~rikujyo/

第67回「きふ清流国体」の結果、優勝こそなかったが、牧野康博選手(ユティック)が、成年男子800mで会心のレース運びで2位に入賞。少年共通女子棒高跳では、宮川海峰選手(敦賀気比高)が、大舞台で自己記録と並ぶ3m60を跳んで3位に入賞。4年連続の入賞であった。成年女子400mハードルでは、野村有香選手(北海道ハイテクAC)が積極的な走りでも6位、また、少年女子A100mハードルの川村涼伽選手(敦賀気比高)も6位入賞。少年男子B110mハードルでは、熊谷成将選手(敦賀気比高)が全国大会初入賞となる7位に入賞。熊谷選手は、まだ高校1年生。今後の活躍を期待したい。これから駅伝シーズン。駒沢大学の窪田忍選手、東海大学の早川翼選手らを筆頭に、駅伝選手も頑張ります。

JAAF 岐阜陸上競技協会

GIFU

〒502-0841岐阜市学園町3-49 仁科ハイツA102
TEL : 058-294-6494 FAX : 058-294-6491
http://gold.jaic.org/gifu/

第67回国民体育大会・第12回全国身体障害者大会が無事終わりました。国体では種目別・陸上競技で、大方の予想を裏切って46年ぶりに天皇杯を獲得することができました。何しろ入賞したのは沖繩大会以来のこと、昨年の山口では54点だったので大躍進となりました。前回の陸連時報で、「岐阜の国体は良かった」と言っていただけなのに上位にしたいと述べましたが、運営面に対する皆様のご感想は如何だったでしょうか? 12月23日の理事会では男女都道府県対抗駅伝のメンバーが承認され、昨年より上の目標を掲げて調整に入る予定です。国体の勢いに乗って上位入賞を狙いたいところですが、今年はふるさと選手が手薄です。また、やっと法人化の作業を加速する余裕ができました。
(文責:理事長 山田展也)

JAAF 一般財団法人長野陸上競技協会

NAGANO

〒386-0151上田市芳田1656-1 杉崎憲雄様方
TEL : 0268-35-2132 FAX : 0268-35-2132
http://nagano-rk.com/

平成24年11月16日・17日の2日間長野県を南北に縦断する22区間、総距離217.5kmの駅伝競走大会を行いました。今年で第61回目を迎えた長野県縦断駅伝競走大会は、晩秋の信濃路を飾る風物詩として沿道の市町村の人々に親しまれております。地域より選抜された一般・高校・中学・男女の代表選手により編成された15チームが競い合っています。この歴史ある駅伝大会を通じて日本や世界へ飛躍するランナーが生まれております。平成16年開催の第9回全国都道府県対抗男子駅伝で長野県チームは悲願の初優勝を成し遂げました。このような成果を出すことができたのも、この大会を通じての成果であります。今年の全国都道府県男子駅伝頑張りますので、ご期待ください。
(文責:総務委員長 杉崎憲雄)

JAAF 三重陸上競技協会

MIE

〒516-0023伊勢市宇治館町510 三重県営総合競技場陸上競技場内
TEL : 0596-22-8890 FAX : 0596-22-8890
http://www.mierk.jp/menu/index.htm

岐阜国体では、少年A400mで愛敬彰太郎選手(桑名高)が優勝したのをはじめ、成年3000mSCの梅枝裕吉選手(NTN)、少年A5000mの西山雄介選手(伊賀白鳳高)、少年B走幅跳の松岡修平選手(高田高)が2位に入賞するなど男子の活躍が光った。日本ニュースでは男子やり投で齋藤康平選手(宇治山田商高)が2位、女子ハンマー投で油谷文月選手(相可高)が3位入賞。ジュニアオリンピックでは腿部洋代選手(度会中)が女子ジャベリックスローで優勝するなど、若い選手も活躍した。12月には全日本実業団女子駅伝でデンソーが2位と2012年をしめくくってくれた。2013年のシーズンに向け、11月にはU18クリニック、12月には宮川千秋氏を招いた指導者講習会を開催するなど、さらなるレベルアップに向けて取り組んでいる。
(文責:広報部長 南部朋)

JAAF 一般財団法人滋賀陸上競技協会

SHIGA

〒520-3251 湖南市朝国607番地
TEL: 0748-72-2056 FAX: 0748-72-2056
http://www.biwako.ne.jp/srkshiga/

新春のお慶びを申し上げます

法人団体として2回目の正月を迎えました。昨年中は、協会運営等に対して、ご支援ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。本年も、競技力の向上と普及活動、協会運営に責任をもって邁進していく所存でございますので、どうかよろしくお願いたします。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

一般財団法人滋賀陸上競技協会 執行役員一同

JAAF 一般財団法人奈良陸上競技協会

NARA

〒630-8113 奈良市法蓮町349-1 コーポラス一条415号
TEL: 0742-27-2312 FAX: 0742-27-2312
http://www.narariku.com/

去る11月3日、地域活性化事業の一環として「中高合同投擲研修会」を実施いたしました。午前中に記録会を行い、午後から講師の野口安忠先生（砲丸投・元日本記録保持者）をお迎えし、技術講習会を実施。県内の優秀選手約50人・指導者約30人が参加し、投擲種目の基礎基本を真剣に学びました。大変丁寧に伝授いただき選手・指導者共々、目標達成に向け確かな手ごたえを感じていました。当協会といたしましても「投擲王国・奈良」の再建に向けて大変意義深い事業であったと考えております。今後も陸連の支援をいただきながら悲願のオリンピック選手育成を目指したいと考えております。

JAAF 一般財団法人京都陸上競技協会

KYOTO

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番地2
TEL: 075-322-5500 FAX: 075-322-5501
http://www.krk26.jp/

2012トラックシーズンの最後を締めくくる好記録を洛南高校がマークしました。桐生祥秀選手の100m10秒19、4×100mリレー39秒64、いずれも高校新記録であり特に桐生選手の10秒19はユース世界最高という大記録でした。この勢いを京都勢全体が受け継いで、各種駅伝大会において上位入賞を目指してほしいと思います。その先頭を切って12月16日に行われた全国中学駅伝女子の部で櫻原中学校が8位に入賞しました。櫻原は2年連続2回目の出場。一昨年は1、2年生で臨んで16位でしたが、昨年は見事に入賞を果たしました。引き続き行われる駅伝での京都勢の活躍を期待していきたいと思っております。

(文責: 広報部長 相模浩史)

JAAF 一般財団法人和歌山陸上競技協会

WAKAYAMA

〒641-0014 和歌山市毛見200 紀三井寺公園陸上競技場内
TEL: 073-444-3662 FAX: 073-444-3662

普及活動真っ最中!! 3年後に全国インターハイ、国民体育大会を控えた本県では、選手強化と相まって普及活動にも力を入れています。一つ目は、子どもたちを指導する指導者の養成です。二つ目は、小学生・中学生のころからの一貫指導を通して、高校・大学に進学後も各種全国大会等で活躍し、本県のスポーツの普及・振興に大きく貢献してもらおうことです。三つ目は、少子化に伴う学校の小規模化や教員の高齢化を補うため、各クラブチームや学校の持つ知的財産を共有することです。子どもの成長は日進月歩です。このような取り組みが功を奏し、オリンピックにも手が届く選手も育ってきています。私たちは、一喜一憂しながら、本県陸上競技の競技力向上に少しでも寄与できればと思っております。

(文責: 選手強化普及委員会普及部長 内田敏夫)

JAAF 一般財団法人大阪陸上競技協会

OSAKA

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1 大阪市長居陸上競技場内
TEL: 06-6697-8899 FAX: 06-6697-8766
http://www.oaaa.jp/

大阪陸協恒例の陸連主催3大会の前に大きな期待の大会があります。2連覇がかけた都道府県対抗女子駅伝がそれです。ダイハツ・スターツの実業団勢に全国屈指のレベルの薫英女学院高校とスーパー中学生が絡みます。昨年度のタイムを上回るのは確実で、最終の慎重な調整が待たれます。1月27日の大阪国際女子マラソンは世界選手権の選考を兼ねて、各選手が高低差約5mの日本有数の高速フラットコースに挑戦します。2月2日・3日は、日本・中華台北交流ジュニア室内陸上競技大会、日本ジュニア室内陸上競技大会です。昨年同様中華台北ジュニア選手団を日本ジュニア代表と近畿代表が迎え、陸上競技を通して交流の実をあげます。そして最後は3月16日・17日の全国小学生クロスカンントリーレーン研修大会です。全国の代表が池田市民文化会館、万博公園に集います。

(文責: 専務理事 栗師寺茂夫)

JAAF 一般財団法人鳥取陸上競技協会

TOTTORI

〒680-0944 鳥取市布勢146-1 コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場(第2研修室)
TEL: 0857-28-6540 FAX: 0857-28-6540 http://www.hal.ne.jp/trk/

鳥取陸上競技協会科学研究部は、4年前に発足しました。活動内容は、①アンチ・ドーピング啓発活動 ②(公財)鳥取県体育協会と連携した栄養、メディカルサポート事業 ③スポーツ障害調査研究 ④バイオメカニクスの研究等を行っています。本県の高校生競技者の登録者数は、男女で700名を切り競技人口の確保は至上命題であり、同時に、現在の登録者一人一人を大事に、競技力の向上をめざして育成していくことが重要と考えています。医科学の面で言うと、今は県体協と提携したドクターの力を借りていますが、今後は、本協会の一員として専門的にサポートしていただける体制を作ること、そのサポートをしていくことが科学研究部の役割です。

(文責: 科学研究部長 国森敬章)

JAAF 一般財団法人兵庫陸上競技協会

HYOGO

〒655-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1-6 神戸市生涯学習支援センター内
TEL: 078-231-1771 FAX: 078-231-1772
http://www.haaa.jp/index2.html

新年 あけましておめでとうございます。第2回神戸マラソン(11月25日)も大きな事故もなく終了する事になりました。全国から19200人の参加者がありました。7時間の制限時間を設定しましたが、完走率が97.7%と昨年よりも高い完走率になりました。本年度は、快晴のもと実施することができ、参加者からも温かい言葉を頂き大変満足のいく大会であったと聞いています。第3回大会もより充実した神戸マラソンになるよう努力していきます。全国都道府県対抗男子・女子駅伝競走大会に向け、強化委員会では入賞めざして強化しています。また、第96回日本陸上競技選手権大会男子・女子20km競歩に向けて選手がより記録が出やすい環境を考え準備しています。

JAAF 一般財団法人鳥根陸上競技協会

SHIMANE

〒690-0015 松江市上乃木10-4-1 松江市営陸上競技場内
TEL: 0852-23-6686 FAX: 0852-23-6686
http://www4.ocn.ne.jp/~kenriku/

寒風吹き荒れる日本海からの横風を受けながら「スポーツの振興」と「地域の活性化」を目指す第21回浜田～益田間駅伝(しおかぜ駅伝)を12月9日42.195kmの9区間40チームの参加で開催した。中学・高校・一般の男女の混成チームから成りたち、出場は旧市町村対抗からのもので合併した現在も引き継がれている。その中で、チーム編成に苦慮している地域等もあり、様々な条件のもと選手は地元の期待と声援を受けながら懸命に櫂を繋いだ。結果は、出雲市が6回目の優勝を果たし、2位に松江市、3位に津市と続いた。

(文責: 総務委員長 赤名磨己)

陸 連 時 報 2 0 1 3 年 2 月 号 目 次

2013年度主要競技会日程	230
年頭にあたって(河野洋平会長)	231
理事会報告	232
強化関連情報(強化委員会)	234
2012年度全国強化責任者会議報告	
第69回(2014/長崎)・第70回(2015/和歌山)国民体育大会実施種目	
2012年度全国普及育成担当者会議報告(普及育成委員会 盛田和彦)	236
国際陸連(IAAF)カウンシル会議報告(理事・国際委員長 田中克之)	237
2012年競技会運営研修会報告(競技運営委員会)	238
日本陸連アスレティック・アワード2012報告(事務局)	240
2012年度「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」について (事務局)	242
大会観戦ガイド	243
陸協NEWS	244
事務局からのお知らせ	246

陸連時報編集委員

- ◇編集委員
- 河野 洋平 (陸連会長)
 - 横川 浩 (陸連副会長)
 - 三宅 勝次 (陸連副会長)
 - 澤木 啓祐 (陸連副会長)
 - 尾縣 貢 (陸連専務理事)
 - 原田 康弘 (陸連強化委員長)
 - 風間 明 (陸連事務局長)
 - 高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)
- ◇時報編集室責任者
- 森 泰夫
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
 - 石塚 浩
 - 木越 清信
 - 宮田 宏
 - 本田香代子
 - 森谷 真咲

事 務 局 か ら の お 知 ら せ

◆◆事務局が移転致しました◆◆

2012年12月17日より、事務局が下記に移転致しました。

新所在地

〒163-0717 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル17階

電話番号：03-5321-6580 FAX番号：03-5321-6591

アクセス JR / 小田急線 / 京王線新宿駅西口 徒歩10分

都営地下鉄大江戸線都庁前駅 A7出口徒歩2分

東京メトロ丸ノ内線西新宿駅 2番出口徒歩5分



公 告

「陸連時報」は、公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願いいたします。公益財団法人 日本陸上競技連盟

陸連時報編集室の住所・電話番号・FAX番号も下記に変更ください。

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟事務局 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
ホームページ <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>